

平成 30 年度
松原市青少年海外友好交流事業
報告書



平成 31 年 3 月 23 日～3 月 29 日



松 原 市

はじめに

2017年2月にメルボルン ムーニーバレー市を視察し、昨年度、第1回目となる青少年海外友好交流事業を実施しました。今年度は第2回目となる事業として、新たに留学体験とホームステイをとりいれました。参加者は抽選で選ばれた市内在住の高校1年生から3年生までの10名と引率の職員3名で渡航しました。事前学習では松原市とムーニーバレー市についてや英会話学習、また各自が現地で体験したいことなど2月から4回行いました。

そして3月23日～29日、現地で5日間（機内2泊のため）を過ごしました。4日間はノースジーロン・セカンダリーカレッジにおいて留学体験とホームステイを行い、最終日はムーニーバレー市で若者の活動について学び、高校生たちが担当者と英語で情報提供を受け、質疑応答を行うことができました。

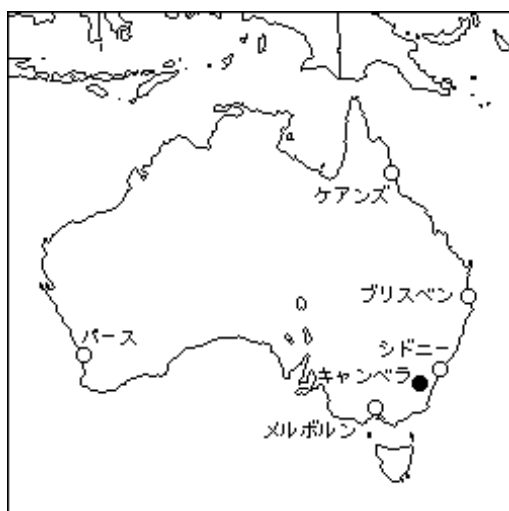
高校生たちにとって、現地の生活文化に触れることで、国際的な視野を広げ、積極性、協調性、チャレンジ精神を育む機会となりました。

実施にあたっては、現地の高校及びムーニーバレー市議会、ムーニーバレー市職員のご協力を得たものです。

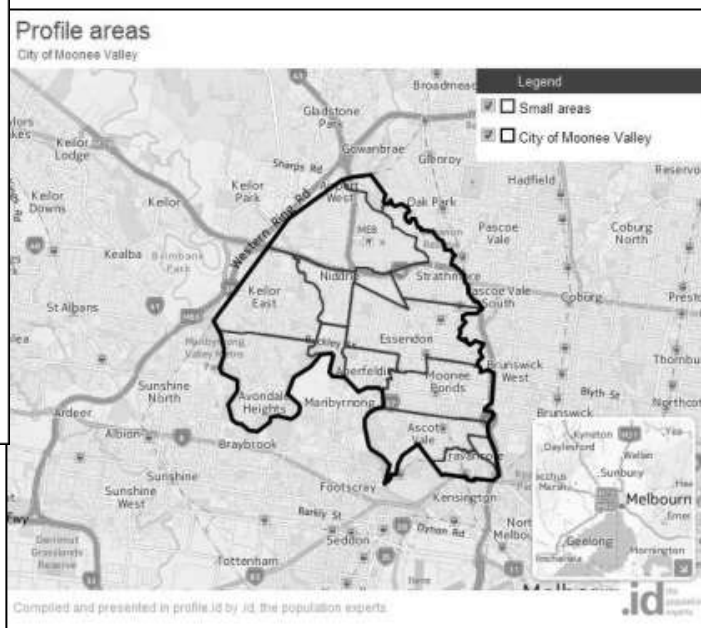
【Moonee Valley（ムーニーバレー市）の概要】

オーストラリア連邦ヴィクトリア州ムーニーバレー市

面積は43k m²、人口は119,583人（2015年6月末）47,000世帯で、メルボルンの北西に位置しています。時差は+1時間（サマータイムは+2時間）で、大阪と真逆の四季があります。スポーツはクリケット、サッカー、オーストラリアン・フットボールが活発です。市内には大学が2校、専門学校かつ高校が1校あります。SC（セーフコミュニティ）の取組みは2011年から開始し、2014年10月に国際認証を受けています。



オーストラリア



ムーニーバレー

1. 行程概要及び参加者

(1) 期間：平成31年3月23日（土）～3月29日（金）

(2) 行程：

日付	行程
3月23日	15：40 関西国際空港集合 18：10 関西国際空港出発（CX595便） 22：55 香港国際空港到着（時差－1時間）
3月24日 時差 ＋2時間	01：05 香港国際空港出発（CX105便） 12：15 タラマリン空港（メルボルン）到着 13：50 タラマリン空港出発 15：00 ノースジーロン・セカンダリーカレッジに到着 ホストファミリーと面会／校長より挨拶 16：00 ステイ先へ各々解散 17：00 ムーニーバレー市内のホテル到着（引率のみ） 18：00 ムーニーバレー市議会のリチャード ローレンス市議と懇談
3月25日	08：15 登校 08：48 朝会 08：58 1限目 09：47 2限目 10：36 スナックタイム（モーニングティー） 11：01 3限目 11：50 4限目 12：39 昼食 13：32 5限目 14：21 6限目 15：10～下校 16：00～ステイ先にて各自行動 17：00 ムーニーバレー市内視察（引率のみ）
3月26日	08：15 登校 08：48 バスで公立の陸上競技場へ移動 08：58 アスレチックデー（体育祭）開始 各自、競技に参加 14：30 バスで学校へ移動 15：10～下校 16：00～ステイ先にて各自行動 17：00 メルボルン市内視察（引率のみ）

3月27日	08：15 登校 08：48 朝会 08：58 1限目 09：47 2限目 10：36 スナックタイム（モーニングティー） 11：01 3限目 11：50 4限目 12：39 昼食 13：32 5限目（お別れ会） 14：21 6限目（お別れ会） 14：50 ホテルへ 16：00 ホテルチェックイン（高校生10人） 18：00 夕食 20：00 ホテルへ
3月28日	09：30 ホテルチェックアウト 10：00 ムーニーバレー市議会事務局 ユース担当職員と懇談 12：00 ترامでクイーン・ヴィクトリア・マーケットへ 12：30 クイーン・ヴィクトリア・マーケット 見学 15：00 ترامで移民博物館へ 15：30 移民博物館 見学 17：00 ترامでヴィクトリア州立図書館へ 17：30 ヴィクトリア州立図書館 見学 19：00 ترامでホテルへ 20：15 ホテル発 専用車でタラマリン空港へ 20：40 タラマリン空港到着
3月29日 時差 －2時間	01：00 タラマリン空港出発（CX178便） 06：55 香港国際空港到着 08：00 香港国際空港出発（CX562便） 12：35 関西国際空港到着 14：30 関西国際空港解散

(3) 参加者：

	所 属 ・ 役 職
1	学生
2	学生
3	学生
4	学生
5	学生
6	学生
7	学生
8	学生
9	学生
10	学生
11	副理事兼市民協働部 市民協働課 課長
12	市民協働部 市民協働課 主幹兼 NPO・国際交流係長
13	市民協働部 市民協働課 NPO・国際交流係

2. ホームステイ

◆日時及び会場

- ・日 時：平成31年3月24日（土）15：00～ 27日（木）8：00 3泊
- ・会 場：ノースジーロン・セカンダリーカレッジ
- ・出席者：校長・留学生担当教員2名・ホストファミリー8世帯

学校による授業についてなどのオリエンテーション後、ホストファミリーと面会し、各自ステイ先へ車で移動した。（6世帯は1人ステイ 2世帯は2人ステイ）

各自、プレゼントを渡し、家庭内でのルール（家事や食事など）を確認し、家族やペットと過ごしながら夕食をとった。昼食はファミリーもしくは自らサンドイッチなどを作り、フルーツと学校へ持参していた。学校への送迎はファミリーが行っていた。

※ホストファミリーは別紙参照



3. ノースジーロン・セカンダリーカレッジ 留学体験

◆日時及び会場

- ・日 時：平成31年3月25日（月）～27日（水） 8：58～15：10
- ・会 場： ノースジーロン・セカンダリーカレッジ及び公立陸上競技場

7年生（中学1年生）～12年生（高校3年生）のうち、9年生と10年生の授業に4つのグループに分かれ参加した。

※カリキュラムは別紙参照



4. ムーニーバレー市議会事務局 ユース担当職員と懇談

◆日時及び会場

- ・日 時：平成31年3月28日（木） 10:00～11:00
- ・会 場：エッセンドン アpartment ホテル
- ・出席者：ナオミ サイヤー氏 ジェシカ トレベナ氏

ムーニーバレー市には市議会のバックアップのもと、12歳から25歳の若者が地域を住みよい街にするため「バレーユース」というグループ活動を行っている。その活動を担当している事務局と懇談を行った。松原市の高校生が積極的に英語で質問をし、ユースの活動について強い関心をもった。

●バレーユースとは（Valley youth） ※別添冊子

ムーニーバレー市在住・在勤・在学の12歳から25歳の若者のことを指す。（国連で若者と位置付けられている年代と合わせているとのこと）

シティ（メルボルン市街地）に近いムーニーバレー市では、若者が生活する上でさまざまな可能性を感じられるまちとなれるよう、より知名度をあげられるのではと市議会は考え、今後10年間の生活について若者を対象に意識調査を行った。結果、6つの課題が浮き彫りになり、その課題解決のため、市議会は多文化共生や個性を大切にする理念のもと、市議会と若者が一緒に解決策を探り、そのための方向性や具体的な取組をまとめることになった。（若者のための戦略）

課題・方向性

- ① 体の安全、心の安心を感じることができる
- ② 衣食住を叶えられる
- ③ 健康的でいられる
- ④ 学習できる
- ⑤ 参画できる
- ⑥ 住環境や地域の仕組みを支持する



▽参考 意識調査（2018年）

499人（12-14歳 33%/15-17歳 42%/18-25歳 25%）

- ① 83%が性的公平感を感じている
- ② 80%が市の多様性について誇りを持つべきだと考えている
- ③ 81%が問題が起きた時のサポートを積極的に行いたいと考えている
- ④ 38%が家を借りる時の自らの権利について十分な知識がある
- ⑤ 34%が生活費が足りていないとしばしば不安を感じる
- ⑥ 61%が将来の雇用機会について安心している

5. メルボルン シティ見学

◆日時及び会場

- ・日 時：平成31年3月28日（木） 12:30～19:00
- ・会 場：クイーン・ビクトリア・マーケット
移民博物館
州立図書館

ムーニーバレー市からトラムで移動し、メルボルンという都会において、多様性や生活文化について学習する機会となった。



6. 本事業を振り返って

今回の交流事業は、初めての留学体験とホームステイを試みました。英語の聞き取りや会話が求められる環境に当初は不安を感じていた高校生たちですが、その英会話だけの生活が彼らに積極性とチャレンジ精神を育むことにつながったと感じています。留学では他の生徒と一緒に授業に参加し、現地の中学3年生と高校1年生の数学や科学、体育、日本語など英語での授業に戸惑いながらも、真剣に学習に取り組んでいました。年に1度の体育祭では競歩や二人三脚に出場したり、クラスメートの応援を楽しみながら過ごしました。

ホームステイの最終日には、ホストファミリーからメッセージを各々のノートに書いてもらっていました。事前学習の時から現地での授業にも使っているこのノートは、1人ひとりの個性が活かされた、経験や思い出がたくさんつまった大切な1冊となっています。

高校生の感想から、新しいことにチャレンジすることへの不安と喜び、自分自身の背景や地域のことをふりかえる大切さ、人との出会いの暖かさ、コミュニケーションをとることの大事さを感じることができた7日間となったようでした。

今後も松原市の将来を担う国際感覚豊かな若者の育成に向け、国際交流事業を展開していきたいと考えています。